

みやぎ技能 KENTEI NEWS

—第 6 号—
令和 4 年 3 月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

株式会社北光南方工場 今野 友哉さん（25歳）

1級プラスチック成形技能士（射出成形作業）令和3年度合格



受検するきっかけ

平成27年に涌谷高校を卒業後、株式会社北光南方工場の成形課に入社配属されて、今年で6年目になります。現在は、プラスチック射出成形部門のエリアリーダーとして、チームの業務のとりまとめや課題解決を行いながら、成形機のオペレーターの業務に携わっています。

最初の受検は、入社3年目の2級です。技能検定制度の存在は、入社してから知りました。自分の技量を試す試験があるということで受検したのだと思いますが、正直、2級受検のきっかけはよく覚えていません。でも、1級は、2級に合格した時から、「次は1級を受けたい」と思っていました。仕事における技術の向上と自身の成長のためにも、1級の知識や技能が必要なんじゃないかなと思いましたし、会社のバックアップも大きいのでチャレンジしてみようと思いました。本当は、令和2年度に受検しようとしていたのですが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、今年度受検しました。

合格に向けて取り組んだこと

学科試験の勉強は、過去問を繰り返し勉強し、わからないところはテキストで確認することにより理解が深まりました。

実技試験の練習は、とにかく、透明な製品の霽（もや）がうまく抜けなかったことによりかなり苦戦し、実技の練習の3分の2くらいはこれに費やしました。

また、1級は2級に比べて品質やスピードについてレベルが高いため、上司や先輩にアドバイスをもらいながら繰り返しの練習をするほかに、会社から時間を設けてもらい、本番を想定した練習も行わせてもらいました。

技能検定受検を通して得たこと

改めて基本の重要性がわかったということだと思います。忘れかけていた部分も技能検定の勉強を通してその重要性を再認識することがありました。

また、実技試験の練習では、うまくいかない部分を、同僚と一緒に考えながらやって、うまくいった、だめだったというふうに、試行錯誤するのが楽しかったです。やっと透明製品の霽（もや）が抜けた時には「やっと抜けたな」という感じで嬉しかったです。



今後の目標

さらなる自分の技能の向上を目指して特級技能士になれるよう日々努力することです。資格の取得はゴールではなく、さらなるステップアップのための手段だと思うので、今後も受検を通して得た知識や技能をより向上させられるようモチベーションを上げて努力していきたいと思います。

事業者の声



右) 代表取締役社長 佐藤伸也さん

「芳賀技師が、社員の育成に献身的に頑張ってくれているんです。各種費用負担も社員の研鑽には代えがたいですから。」

左) 南方工場製造2課技師 芳賀利之さん

「会社には無理を言って資格手当をアップしてもらったこともありました(笑)」



50台以上の成形機が、6～8のエリアに分かれ、設置されています。

技能検定への取り組み状況

技能検定を受検する活動は、平成9年度の築館工場から始まり、工場移転等で一時中断はあったものの、

現在まで25年近く継続しており、平成26年度には、技能検定功労事業所として知事表彰をいただきました。平成30年度からは、南方工場と高清水工場でも実技試験を受験できるように環境整備に取り組みしました。技能検定の練習は、休日のほか勤務時間を練習時間に充てたり、練習に必要な材料費もちょっとびっくりするくらいの価格ですが、会社が全額負担しており、練習では、社内のベテラン技能士が指導を行うなど、受検者のバックアップをしています。また、最近はお客様から、資格を持っている事を要求されることも増えており、会社としても計画的に社員の資格取得を勧奨しています。

当初から、資格取得のための受検費用は会社が全額負担しており、合格後は、級ごとに資格手当が支給されます。また、資格制度とは別に、30等級の職能給制度もあり、資格を取得しただけでなく、その資格を使って、実際に実績を上げていけば、職能給も支給されるようになっていきます。



資格取得の意義

組織とか企業に頼らなくても、自立してやっていける力を社員一人ひとりが身につけてくれることが大事だと思っています。自分の力で生きられる、社会的に通用する資格を持ち、認められる力を持つということは、本人のためになるし、仕事をする上でのモチベーションにもなります。もちろん、資格の裏付けのある知識や技能の習得は、生産性や品質も向上させてお客様のためになるし、会社のためにもなるのですから、悪いことは一つもない、良いことしかないのです。

技能検定受検では、普段はやらない厳しい条件で、普段は考えないようなことも考えなければなりません。ものづくりをする者にとっては、その試行錯誤でレベルがあがっていくので、良い経験になると思います。

今後の取り組み

人件費の安い諸外国に製造業が移転しており、日本に残る仕事は技量が要求される難しいことやスピード

が要求されるものとなっています。それらを適正なコストで提供できるという強みを持つ必要があります。とはいえ、技能は一朝一夕に上達するわけではありませんから、地道に人の育成を続けてやっていかなければならないと思っています。また、特に地方では少子化が顕著ですが、入社してきてくれる人たちを大切にしたいと思いますし、Uターンなどで戻ってくる人たちの受け皿にもなっていきたいと思います。



社員にはそれぞれ持ち味があって、機械に詳しくったり、電気に詳しくったり、いろんな社員がいますの



で、その人にあった部分を極めていってもらえたら良いと思っています。若い人たちにはいろいろなことを吸収してもらって、よりよい生活をしてもらえたいと思っています。ずっとやってきましたので、これを続けていきたいと思っています。

株式会社北光南方工場（登米市南方町長者原）



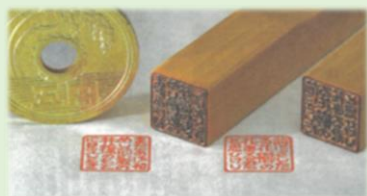
会社紹介

社 名：株式会社北光
代 表：代表取締役会長 小池 勇
代表取締役社長 佐藤伸也
創 業：昭和43年8月
事業内容：車載電装部品、モジュール部品、
インサート部品の生産・組立
所在地：本社・高清水工場
栗原市高清水下佐野 23
T E L：0228-58-3151
W e b：https://www.t-hokkoh.com/

<ひとくちメモ こんな職種知ってる？>

「印章彫刻（いんしょうちょうこく）」令和3年度後期技能検定で実施されました。宮城県では、昭和49年以来、48年ぶりに実施された職種で、象牙、水牛、ツゲの木などの印材を彫刻して印章を作成する仕事です。

印章は、個人、会社、団体の責任や権威を証明するものとして日本でも古くから使用されています。いわゆる「はんこ」ですね。



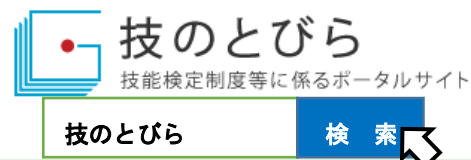
ほかにも、さまざまな場所に、たくさんの分野の仕事があり、私たちの社会や暮らしを支えています。そこにある「技能」を知ることから、あなたの世界が広がるかも。

「技のとびら」（技能検定制度ポータルサイト）のご紹介

技能士のすぐ腕動画配信中！

さまざまな技能職種の紹介のほか、各種技能競技大会情報、技能検定の合格者体験談、企業側の視点での技能士の活用事例なども掲載されています。

ぜひ一度のぞいてみてください。



技のとびら

検 索

